



研究

宇宙電波観測 VLBI の東アジアネットワーク  
茨城大学で会合 国内外から 100 人が集結

9月23～27日、国立天文台水沢 VLBI 観測所との共催による「第12回東アジア VLBI ワークショップ」が本学で開催され、韓国・中国・台湾など11の国・地域から約100人の研究者が集まりました。25日には、高萩市・日立市に設置されている電波望遠鏡の見学ツアーも開かれました。

VLBI は、複数の電波望遠鏡の観測データを合成してひとつの観測データとして扱う手法。地

域をこえた協力を目的として、世界に複数のネットワークが存在し、東アジア VLBI ネットワークもその一翼を担っており、毎年ワークショップを開催しています。日本で開催されるのは3回目、本学の開催は初めて。近年、中国・韓国において望遠鏡施設の整備が一気に進んだことから、体系的な共同利用の体制が構築されつつあり、茨城大も来年からの参入に向けて準備を進めています。加えて、東南

アジアの各国でも望遠鏡の建設計画が進められていることから、今回はタイやマレーシア、インドネシアという国々からも参加者があり、望遠鏡の制御機構などを熱心に見学していました。

東アジア VLBI ネットワークの発展によって、今後、ブラックホールや宇宙の成り立ちについての新たな発見や成果が生まれ



ることが期待され、茨城大学の役割も一層高まることになりそうです。

リカレント教育



サザコーヒーと連携したリカレント教育スタート

茨城大学リカレント教育プログラムのカスタムコース第二弾として、株式会社サザコーヒーとの連携による同社従業員向けの「SAZA campus cafe program」が新たに開講し、9月26日に水戸キャンパス図書館内のサザ

コーヒー店舗で開講式が行われました。

2019年度後期は8人の従業員が受講。受講式では三村信男学長からひとりひとりに受講許可証が手渡されました。

サザコーヒーの鈴木誉志男会長が「みなさんの心の履歴書の中で『大学で学んだ』という経験が加わることは素晴らしいこと。人生のよい時間を送れると思います」とエールを送ると、受講者のひとりには、「大学の授業を受けられるというのは楽しく心踊ることだが、学んだことを仕事に活かし社会貢献したい」と抱負を述べました。

ダイバーシティ



農研機構で女性研究者の働き方に触れるツアー

9月24日、理系の女性学生などを対象とした企業や研究機関への訪問見学会の一環で、つくば市にある農研機構の訪問ツアーを実施し、農学部の学生13人が参加しました。

はじめに農研機構の概要について説明を受けたあと、同機構の加藤晶子ダイバーシティ推進室長が登壇し、一時預かり保育室の運営などの積極的な取り組みを紹介。その後、本学卒業生でもある森山英樹上級研究員が自らの研究生活について、柔軟な裁量労働制などに触れながら説明しました。

後半は、加藤氏、森山氏を囲んだ懇談を実施。学生たちからは、「転職は多いのか」「機構に入るためには大学院まで修了している必要があるか」といった率直な質問があがりました。参加者した農学部1年の高瀬ゆうのさんは、「研究職というのは休みがなくずっと仕事をしている思っていたが、働きやすい制度がたくさんあることを具体的に知ることができて、この仕事に就きたいという意欲が高まった」と感想を述べました。

今号の一枚



茨城高校で1day キャンパス 同校卒業の学生たちが後輩に語る

おもなメディア掲載

- 9/4 茨城新聞「吐玉泉」附属幼稚園で救急教室。年長児が心肺蘇生法など学ぶ
- 9/8 茨城新聞「<図書館司書お薦めの一冊> 茨城大学図書館 大内優香さん 気負わず眺めればいい!」図書館・大内優香さん 寄稿
- 9/14 東京新聞「<お・も・て・ナシ> 県産使用スイーツ食べて 50店以上でオリジナルメニュー」3年生の小野嶺奈さんが取材
- 9/17 日経産業新聞「光使い電子の「スピン」制御」理・佐藤正寛准教授らの研究成果
- 9/18 NHK(水戸)「いば6」『学生が観光プランを競うコンテスト』人社の馬渡剛教授のゼミの学生チームが常総市の神社での結婚式のプランを提案
- 9/21 FM NACK5『大野勢太郎の楽園ラジオ〜パワー全開!!』理・百武慶文准教授がスタジオ出演 研究内容や水戸ホーリーホックの活動などを紹介
- 9/22 フジテレビ『日曜報道 THE PRIME』「処理水“海洋放出”の安全性」専門家として理・田内広教授がコメント出演
- 9/25 日本テレビ『ミヤネ屋』「<原発処理水問題> 海洋放出は安全? 専門家徹底解説」理・鳥巻祐二教授がスタジオに生出演して解説
- 9/25 NHK(水戸)「アジアの研究者 茨城大の電波望遠鏡視察」宇宙科学教育研究センターの見学会の様子を記者の解説付で紹介
- 9/25 産経新聞「茨大で試験栽培「奇跡の野菜」ヤーコン 香川で生産20年」
- 9/26 茨城新聞「電波望遠鏡を視察 11カ国の研究者 構造やシステム見学 高萩」
- 9/26 NHK(水戸)「いば6」『リカレント教育』働き方が変わる! セキショウリカレント教育プログラムの前期報告会を紹介
- 9/27 茨城新聞「受講者が成果報告会」セキショウリカレント教育前期報告会紹介記事

研究



福島原発事故の初期対応検証して避難計画策定を

防災の日である9月1日、水戸キャンパスで『「初期被ばく」対応の現実と広域避難計画への課題〜いま、あらためて振り返る原発事故避難』と題したシンポジウムが開かれました。

登壇者のひとりで、福島県浪江町で被災し現在は兵庫県で避難生活を送っている菅野みずえさんは、2011年3月の原発事故当初はほとんど情報が入ってこなかったこと、避難先でのスク

リーニング調査では高い数値が出たが記録されなかったことなどを説明しました。こうした対応については、東京新聞記者の榊原崇仁さんも福島県の当時のマニュアルに書かれた測定手順と異なるものであることを説明。その経緯などについて取材内容をもとに報告しました。その他シンポジウムでは NGO 職員や本学の教員が登壇し、福島第一原発事故時の状況を振り返り、広域避難計画を策定する上での課題を検証しました。人文社会科学部の原口弥生教授は、「実効性のある避難計画の策定に向けては、住民目線で計画の内容を試行しながら、少しでも根拠のある困難さを、早め早めに指摘していくことが必要だ」と述べました。